

2021年9月21日第143回運輸政策コロキウム～ワシントン・レポートXI～  
奥田専務閉会挨拶

紹介ありました奥田でございます。本日は第11回目のワシントン・レポートを日本では朝10時から、鈴木先生には少し触れていただきましたけれども、ワシントンでは午後9時から、開催いたしましたところ、多数の皆様にご視聴頂きまして誠にありがとうございました。

本日は「米国における無人航空機政策の最新動向2021～更なる利用の拡大に向けた制度改正～」というテーマでレポートをさせていただきました。冒頭、宿利会長から触れられましたけれども、このテーマは2019年12月に当時の山田研究員から、「米国における無人航空機政策の動向」をテーマにレポートさせて頂いたものの続編です。そのレポートにおきましては、夜間・第三者上空における運航についてはパブコメ中、リモートIDについてはパブコメがまさになされようとしているところであるというレポートをさせていただきました。それから約2年を経まして、本日は、夜間・第三者上空における運航、リモートIDについて定められました新たな規則又はその施行状況、今後の検討の方向について最新の動向を報告させていただきました。

また、鈴木真二先生におかれては、山田研究員のレポートの際に続きまして本日も、コメンテータを務めていただきましてありがとうございました。また、欧州における無人航空機の制度についてもわかりやすくご紹介いただきましてありがとうございました。

藤巻主任研究員からの報告と鈴木先生のお話で、日米欧における無人航空機の政策について俯瞰できるとともに、今後、規制内容はそれぞれ異なりますが、運航の安全性を確保しながら、無人航空機の利用拡大を図っていく方向であるというふうに理解いたしました。

また、米国の今後注目すべき動きとして、目視外飛行に向けて実証プロジェクトに基づいて性能基準規制の勧告をアドバイザー委員会が行うべく検討が行われることと、本日の内容を踏まえまして日本の無人航空機業界の発展に向けて、第三者上空における目視外飛行の本格的拡大や業界における人材の多様性の確保について藤巻主任研究員から提言をさせていただきました。

ワシントン国際問題研究所におきましては、引き続き米国の無人航空機政策の動向についてウォッチをいたしまして、機会を捉えて研究所のホームページでレポートを掲載するとともに、コロキウムの機会を捉えて皆様にご報告・提言をさせていただいて、我が国における無人航空機政策の発展に貢献していきたいと考えております。

最後に、毎回皆様方をお願い申し上げますが、この後、アンケートを送信させていただきます。本日の内容、研究所で今後取り上げるべきテーマなど、お気づきの点がありましたら、何なりとお聞かせを願えればと思います。皆様から頂きました貴重なご意見は、今後の研究所の業務運営に生かしてまいりたいと思っておりますので、お時間を頂戴いたしますけれども、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

以上、私からの閉会のご挨拶とさせていただきます。本日はご視聴ありがとうございました。